

発行者：厚木交響楽団 友の会事務局

「柔らかな日差しに包まれて、黄金色の秋に、このままずっと埋もれていたいなあ〜。」

そんな穏やかな日和が続いておりますが、  
12月13日にはシベリアから冬の寒気団が到来しそうですよ・・・。  
クレムリン?・・・ロシア! チャイコフスキー!!  
今年最後の定期演奏会は、どっぶり冬モードでお送りいたします。

ところで・・・ロッシェニもチャイコフスキーも知っているけど、  
ヴィエニャフスキって誰?

そう思わず眩いてしまった方もいらっしゃるのでは?  
ヴァイオリン界では有名人とか? でも、あまり耳慣れない作曲家ですよ。ね。  
今回、日本フィルハーモニー交響楽団のソロコンサートマスターでいらっしゃる  
木野雅之さんと共演が実現し、ヴァイオリンコンチェルトの名曲を皆様にお届けする  
にあたって、まずはこの作曲家についての簡単なレクチャーと参りましょうか?  
講師を務めてくれるのは、いつも定期演奏会のプログラムノートですてきな解説を  
披露してくれる島聡子さん(国立音大作曲コース卒業、元厚響ヴァイオリン奏者)です。  
軽妙洒脱な「satoko節」をお楽しみください。



Henryk Wieniawski...何と読むか、わかりますか?カタカナで表記すると、ヘンリック・ヴィエニャフスキと書かれたりしますが、そもそもが日本語では発音しにくい名前なので、ウィニャフスキとか、ヴィエニャウスキとか、読まれ方も様々です。

このようにやうにやとした呪文が何の名前かと言うと、ポーランド出身のヴァイオリニスト兼作曲家の名前です。1835年、ポーランド東部の都市ルブリンにて、ピアニストの母親の元に生まれました。8歳でパリ音楽院に入学、13歳にはヴァイオリニストとして演奏旅行をしていたほどの神童で、民族的な情緒溢れる歌心と、超絶技巧の華麗な名人芸で、当時の人々を魅了しました。

また、2歳年下の弟ユゼフ・ヴィエニャフスキも、ピアニスト兼作曲家として活躍していた人物で、あのフランツ・リストに師事していたこともあり、当時はヨーロッパ最高レベルの音楽家として評価されていました。兄弟で共演したこともあり、兄との共作の作品も幾つか残されています。ヴィルトゥオーゾ(超絶技巧な演奏家)の兄弟ならではの息の合った演奏、生で聴いてみたかったですね。

なかなか耳慣れない作曲家かもしれませんが、例えば「華麗なるポロネーズ」は、ヴァイオリンの教本にも登場するような曲です。ヴァイオリニストの曲らしい、遊び心と歌心の溢れる一品なので、こちらもぜひ聴いてみてくださいね。

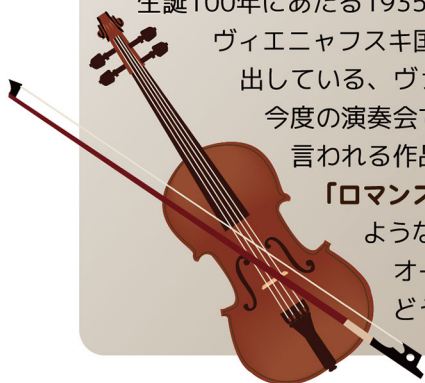
また、大変優れた教育者としても名を残しており、晩年にはベルギーの音楽院にて教授として勤めていました。特にヴァイオリンの新しいボウイング(運弓法)を開発し、ヴァイオリンの技法の幅を広げた人物です。

1880年、旅先のモスクワにて亡くなっています。44歳という、早い死を迎えているのです。

生誕100年にあたる1935年には、ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクールが、そして1957年には、ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリン制作コンクールが創設されました。前者は日本人の受賞者も生み出している、ヴァイオリニストの登竜門と言えるコンクールです。

今度の演奏会で演奏されるヴァイオリンコンチェルトの2番。ヴィエニャフスキ最高傑作と言われる作品で、1楽章の出だしから吸い込まれそうな、厳粛な雰囲気曲です。2楽章は「ロマンス」と題された、ほっと柔らかい空気が。そして、3楽章では、まばたきも忘れるような見せ場が待っていますよ。ソロヴァイオリニストの木野雅之さんも、ヴィルトゥオーゾとして評され活躍されている方です。どんな演奏に出逢えるでしょうか、どうぞお楽しみに!

(島聡子)



今回のソリスト木野雅之先生が、ご多忙中にもかかわらず「友の会通信」のために、メールでのインタビューに答えてくださいました！

これまでヴァイオリンを弾いてこられて、ヴィエニャフスキの曲にまつわる思い出をお聞かせください。

ヴィエニャフスキとの出会いは小学生の頃に勉強した、華麗なるポロネーズ第1番、レゲンデ、中学生の頃に勉強した、スケルツォタランテラ、そして今回のヴァイオリン協奏曲第2番辺りが最初の方になります。ちなみにヴァイオリン協奏曲第1番は高校生の頃に勉強しました。当時からテクニク的に難しい部分は誰しも同じで良く同級生の仲間とは、「ここはこんな風に練習したら？」とか「このフィンガリングスはこの方が良いのでは？」等、話していました。自分としては、テクニク的に難しい部分は良く分析すれば、「この作曲家のこの練習曲をやれば絶対に出来る！」と信じてやっていたのである意味、楽しい勉強でした！

演奏する側から、他の作曲家の曲と比べて、何か特徴的なことがありますか？

ヴァイオリンを弾く立場として見た場合、歌わせる部分は徹底的にロマンティックなイメージがあり、又、ヴィルトーゾ的な部分は限りなく華やかで色彩豊かな所がありメリハリのあるのが魅力的です。又、演奏家だった彼の特徴として様々な所の音楽を自身の曲の要素に取り入れている所が楽しいです。

今回演奏していただくコンチェルト2番について、聴きどころ、事前に知っておいたらよいと思われる情報などありましたら・・・

あまり事前に聞かないで当日を楽しみにして下さい！ヴィエニャフスキの魅力をお伝え出来たら嬉しいです！自由奔放にたく短く生きた彼の人生観を曲を通して感じて頂ければ嬉しいです！

先生、どうもありがとうございました！



Photo by Kazuya Akashi

【木野雅之氏プロフィール】

桐朋学園を経て、ギルドホール音楽院に学び、名匠ニーマン教授に師事。卒業後も、ミルシュタイン、リッチ、ギトリス等に師事し研鑽を積んだ。1984年、カール・フレッシュ国際ヴァイオリン・コンクールや、85年メニューヒン国際コンクールでサロン音楽特別賞受賞、87年には『ロイヤルオーケストラ協会シルバーメダル』を授与され記念演奏会を行った。英国を拠点としてロイヤル・フィル、ベルリン響、モスクワ放響など数多くのオーケストラと共演。またサンレモ、オールドバラ等国際音楽祭への参加やテレビ・ラジオ出演などもさかんにしている。93年4月より日本フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスターに、02年7月よりソロコンサートマスターに就任、現在に至る。使用楽器は恩師ルッジェーロ・リッチから譲り受けた1776年製ロレンツォ・ストリオーニ。

第73回  
定期演奏会

ご来場  
にありがとうございました！



Photo by Manabu Terayawa

去る9月6日、厚木市文化会館にて開催いたしました第73回定期演奏会は、754名のお客様にご来場いただき、盛会のうちに無事終了することができました。

友の会会員の皆様にも多数お越しいただきまして、心より御礼申し上げます。

コンサートミストレスの天野克子先生の喜寿をお祝いするコンサートでもありましたが、先生自ら、協奏交響曲で阿部真也さんと息の合った素晴らしい演奏を披露して下さい、華やかなステージとなりました。マラー「巨人」では、田久保先生渾身のタクトのもと、団員が一つになって演奏し、

誰もが深い充実感を胸に演奏を終えられたと思います。アンケートを通じて、お客様からのあたたかいお褒めの言葉も多数頂戴することができました。このあと、会場を市内のホテルに移して、演奏会の打ち上げに続き、天野先生の喜寿をお祝いするパーティーが行われました。先生のヴァイオリン教室「二葉会」の生徒さんやそのOGの皆さんもたくさん参加され、一緒に御祝い演奏を披露して場を盛り上げて下さいました。その様子は次の「73回定期写真館」でたっぷりお楽しみ下さい。

# 73回定期 写真館



美しい立ち姿！



長野先生のしなやかなタクト捌き！（※）



田久保先生、これから出陣です（☆）



息の合った二人の音が聴こえてきそうですね。



花束プレゼンターは全員、  
天野先生のお孫さんです！



「巨人」3楽章は珍しいコントラバスの  
ソロから



クライマックス！ホルンのスタンディングは  
マーラーからの指示です。（☆）



プロオケからも引っ張りだこの、  
実力派ハーピスト奥田さん



チェロを弾くこの人は…？



全員集合！！



プラスデュオが甘い音色で  
歌います〜♪



「二葉会」の可愛いお弟子さん達  
によるバッハの演奏



「二葉会」卒業生。みなさん、  
現役のヴァイオリン指導者です。



ごあいさつ！

## 学級講座「生演奏を聴いてみよう！」◎南毛利公民館

第73回定期演奏会に先立って、8月30日(日曜日)午後2時より、南毛利公民館に於いて、学級講座「生演奏を聴いてみよう!」が開催されました。

これは、秋の演奏会を前に、当日の指揮者の先生にプログラムの楽曲について市民の皆様にも直に解説していただく企画で、公民館側のご厚意もありもう5年以上続く毎年恒例の講座となっております。

今年は田久保裕一先生をお願いして、「オーケストラのしくみ」をテーマにお話ししていただき、後半は当日のプログラムから「協奏交響曲」と「巨人」について、実際の演奏映像(海外の有名



オーケストラによる)を見ながら解説をしていただきました。講座の後は、一緒に付いている入場券で実際の演奏会に足を運んでいただくことになっており、「講義」と「実習」がワンセットのこの講座を、毎年楽しみに受講されている方々もいらっしゃいます。事務局からも事前にお知らせするよう努めておりますが、間に合わない年もありますので、興味がおありの方は、どうぞ、8~9月の「南毛利公民館だより」に注目していただきますよう、よろしくお祈りいたします。



### ●第75回定期演奏会

2016年4月24日(日) 14:00 開演(予定)  
厚木市文化会館 大ホール

シベリウス アンダンテ・フェスティーボ  
シベリウス カレリア序曲  
カレリア組曲「間奏曲」「バラード」「行進曲風」  
ニールセン 交響曲第4番「不滅」  
指揮/稲垣 雅之



今後の演奏会  
予定

‘16年度最初の演奏会は、北欧の作曲家による作品をとりあげます。1年前はアメリカ特集を組みましたが、それと並行して、以前から私たちが温めてきた企画の一つなのです。「北欧」という響きは「北ヨーロッパ」とは違う独特なニュアンスを持っていると思われませんか?その冷涼な地に生まれ育った作曲家たちは、どのような音楽を私達に届けてくれるのでしょうか?

指揮をお願いしたのは、ここ数年トレーナーとして厚響に関わって下さっている、稲垣雅之先生です。いつも熱心に、辛抱強く、難しい箇所は出来るまで何度も付き合ってください熱いハートをお持ちの先生です!今回初めて、一から先生に音楽創りをお任せして、本番までみっちりお付き合い願います。さて、どのような演奏会になりますか、どうぞお楽しみに!

### 事務局より

- 12月13日に開催の「第74回定期演奏会」の招待券を同封させていただきました。今回はいつもと違って、会場は「伊勢原市民文化会館」になりますので、ご注意ください。お車ご利用の場合は、駐車場が狭いので大変ご迷惑をおかけいたしますが、近隣の東海大学病院や伊勢原協同病院の駐車場もご利用いただけますので、よろしくお願いいたします。(有料となります)
- 2015年度の厚木交響楽団の活動はこの「第74回定期演奏会」をもって終了いたしますが、友の会の本年度会員期間は来年3月までとなっております。年が明けましたら、また継続のご案内等お送りさせていただきますので、引き続き「厚木交響楽団友の会」をよろしくお願いいたします。
- 10月はプロ、アマ問わずいろいろなコンサートを聴きに行く機会に恵まれましたが、昨夜はその締めくくり、ベルリン・ドイツ交響楽団演奏会に行きまして!ところで、入り口で配られる膨大な「チラシ」の束!!!いつもどうしていらっしゃるんですか?受け取らない人も多いようですが、私は一通り目を通すようにしています。思いがけずその中から、素敵な演奏会を見つけることもあるからです。主催する側としては一人でも多くの人に知ってほしい、チラシはその有効な手段のひとつです。厚響の広報担当者も、毎回頑張っていますよ!近隣のホールでの催しに目を配り、チラシの束を抱えてあちこち出没しています(笑)。まずは知ってもらうことから!一枚のチラシにもいろんな思いがこもっています。どうぞ、同封のチラシをもう一度、ゆっくりご覧になっていただけたら幸いです。(事務局 岡田 史子)

